

《学校教育目標》 あいさつ 笑顔 思いやり 心をそろえて チーム兵庫



兵庫っ子

学校便り No. 6
令和5年9月15日
文責 深草 光明

◆ 残暑の厳しさが続きます…。

9月に入って2週目が過ぎようとしています。朝夕はだいぶ過ごしやすくなったと思いますが、昼間の気温はまだまだ夏の暑さのままです。学校ではWBGT（暑さ指数）と気温を毎日計測し、熱中症対策をしています。WBGTが31以上、気温が35℃以上で運動は原則中止としています。昼休みの運動場での遊びや、体育は中止となります。2学期になり、一度だけこの状況になり、運動や遊びを中止しました。晴れているのに昼休みに遊べないのは子どもたちにとって、ストレスがたまることだと思います。なるべくこのような措置は取りたくないのですが、子どもたちの命を守ることを第一に考えると、やむを得ず…。

ただ、本校の職員もいろいろな工夫をして、熱中症対策を考えてくれています。夏休みには職員研修の一環として、東京パラリンピックの競技にもなりました「ボッチャ」の体験会を開き、職員に「ボッチャ」のルールや取り組み方を広めてくれた職員もいます。クーラーをつけた多目的室でもボッチャをすることができますので、WBGTや気温が高い日でも体育の授業が可能です。10月に入ると運動会の練習も始まります。暑さ対策と同時にみんなの知恵を上手く使って、乗り切りたいと思います。

◆ 夏休みの体験活動…ありがとうございました。



いろいろな制限が外れた久しぶりの夏休み。子どもたちは大いに楽しんだのではないのでしょうか。2学期が始まってから、子どもたちは、おじいちゃんやおばあちゃんの家に行ったこと、花火を見に行ったこと、海に行ったこと、ホテルに泊りに行ったこと…いろいろな出来事を私に話してくれました。子どもたちの表情や話しぶりから、心から楽しかったことが伺えました。そのような中、PTAの役員さんや、地域の皆様の御協力で、子どもたちのためにいくつかの体験活動が催されました。兵庫の里祭り、親子料理教室、木工教室などなど…。私も参観させていただきましたが、子どもたちにとってお家の方と一緒に活動は、本当に楽しそうでした。料理教室はカラフルでおいしそうなお菓子を盛りだくさんに使い、思い思いのデザートができていたところでした。盛り付けをしている子どもたちは、みんな笑顔。食べるのも楽しみだとは思いますが、飾りつけや盛り付けをするのが楽しそうでしたね…。

また、木工教室ではお父さんやおじいちゃんの姿も見られました。慣れない手つきで、くぎを打っている子どもたちを私はハラハラしながら見ていましたが、そこはお家の方が上手にサポートされるので、段々と出来上がっていきます。この木工教室は佐賀建設労働組合の方々の御協力もあり、木工作业が初めての子どもたちにも分かりやすく、丁寧に教えていただきながらの作業でしたので、思いのこもった本立てや貯金箱が出来上がっていきました。夏休みの作品の一つにもなりましたね。皆さん本当にありがとうございました。



夏休み中の最大のイベントであった「兵庫の里祭り」ですが…こちらの方は…すみません。その週の火曜日からコロナに感染してしまった深草は、残念ながら家で療養中でした。（泣）参加できずに申し訳ありません…。来年こそはぜひ、子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。

◆子どもの心理的安全性を確保すること…。

「心理的安全性」という言葉を聞いたことがありますか？近年、医療現場やビジネスの分野で使われることが多いのですが、他の人から文句を言われたり、攻撃されたりすることなく、安心して自分の意見や気持ちを言える環境のことです。このことは、学校現場でこそ最も求められる環境であると思います。学級の中で、または友だちグループの中で、安心して自分の思いを伝えられるかどうか…これは学級経営の根幹にあたる部分です。この心理的安全性を保つために大切なのは、教師と子ども、また子ども同士の信頼関係であろうと考えます。まずは、担任と子どもたちとの信頼関係作りが最も重要であり、その信頼関係のもとに、子ども同士の信頼関係が築き上げられるものと思います。私たち教師は日々の暮らしの中で、子どもたちとの信頼関係作りに頭を悩ませています。まず子どもたちを「ほめる」「勇気づける」などを通して承認し、自信をもたせて、気持ちを前に向けることに努力しています。

しかし、一方で叱ったり、指導したりする場面もどうしても発生します。これはあくまで私見ですが、最近の子どもたちは、叱られたり、指導されたりすることに慣れていない子が多くなっている気がします。いけないことをしたり、人に迷惑をかけたり、友だちを傷付けたりしたら当然叱られ、指導を受けます。ややもするとこれらの行為は、子どもの気持ちが教師から離れていきそうですが、「子どもが納得する叱り方や指導」をすれば、逆に信頼につながると信じています。

さて、御家庭での「子どもの心理的安全性」はどうでしょうか？子どもたちはお家の方に対して安心して思いを伝えることができているのでしょうか。安心して思いを伝えるということは、①「本音で話すことができる」ということと、②「嘘をつかない」ということではないかと思えます。

①は、言わずもがな、お分かりいただけると思います。では②はどうでしょう？嘘をつくということは、自分を守ろうとしているということ。嘘をつかなければ心や体の安全が保てないから、だとも言えます。学校で起きた生徒指導事案に対して、嘘をつき通して事実を認めない子どもが時々います。その事案に対して複数の目撃や、証言があるにも関わらずにです。子どもは（すみません、大人もです）自分を守ろうとして嘘をつくことってありますよね。でもほとんどの子は、嘘についても最後には本当のことを話してくれるのですが、どうしても嘘をつき通そうとする様子を見るにつけ、今までのこの子の「心理的安全性」はどうだったのだろう…我々大人がこのことを振り返る必要があるのではないかと考えるようになりました。

学校は子どもたちの「心理的安全性」を確保するために、教師自身が信頼され、よいことも悪いことも、本音で話してもらえるような関係作りを目指したいと思います。どうぞ御家庭でも、そうあってほしいと願います。「子どもの心理的安全性を確保すること」ぜひ考えてみてください。すみません…長くなりました。

◆[今後の予定]

9/11～12 子供への暴力防止ワークショップ（3年） 9/25（月）教育実習開始（4週間：中村学園大2名）

9/16（土）土曜開放

9/27（水）クラブ活動

9/17（日）兵庫町民スポーツ大会

9/19～20 子供への暴力防止ワークショップ（4年）

